

令和3年度 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議  
本部会議 会議録

日時	令和4年2月2日（水）午後2時30分から午後4時30分まで
場所	静岡県庁別館9階第一特別会議室 （構成員及び各地域局長はオンライン参加）
出席者 職・氏名	<p>《構成員》 鬼頭宏、吉川慶子、神谷尚世、毛利博、神原啓文、酒井公夫、前澤侑、田中秀幸、秋山辰己、青山吉和、中谷多加二、鈴木博、若林紀伸、守田泰男、石丸哲治、大石正佳、山本知成、高木利夫、望月宏明、高貝亮、伊藤嘉奈子、下位桂子、鈴木智子、中垣乃彩、中島忠男、佐藤育男、中島功、菊地豊、太田康雄、川勝平太(30名)</p> <p>《事務局》 木苗直秀教育長、篠原清志特別補佐・知事戦略監、天野朗彦政策推進担当部長、山口武史デジタル戦略担当部長、長谷川卓地域外交担当部長、藤原学危機管理監、太田博文危機管理部長、杉山浩一経営管理部長、市川敏之くらし・環境部長、植田基靖スポーツ・文化観光部長、石田貴健康福祉部長、山梨正人感染症対策担当部長、三須敏郎経済産業部長、細谷勝彦農林水産担当部長、和田直隆交通基盤部長、松下育蔵企業局長、山根正嗣賀茂地域局長、山本東東部地域局長、鈴木史朗中部地域局長、杉本達男西部地域局長 ほか</p>
議題	(1)美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について (2)意見交換
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 静岡県における人口減少の現状</li> <li>・資料2 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略の2021年度評価</li> <li>・資料3 2021年度美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書(案)</li> <li>・参考1 新型コロナウイルスの影響を受けた重要業績評価指標（K P I）</li> <li>・参考2 重要業績評価指標（K P I）の見直し</li> <li>・参考3 地方創生関係交付金の事業実施状況</li> </ul>

## 1 結果概要

「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況等について、資料1～3及び参考1～3に基づき概要を説明した後、意見交換を実施した。

## 2 知事挨拶

### 【川勝知事】

本日は、美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議に、県の各界の代表の皆様方に御参加賜り、誠に感謝申し上げます。令和2年3月に第2期の計画を定め、本日はその評価案について御審議いただく。コロナ禍のため、残念ながら対面の会議ができず、御不自由をおかけするが、よろしく願います。

現在、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が急拡大をしている一方で、本県における、重症者数は本日時点で3名である。オミクロン株の特性というものが現れており、それに対応する対策を取る必要がある。

また、このコロナ禍の中、岸田総理がデジタル田園都市国家構想を打ち出した。これは本県にとっては追い風になると考える。人の流れが変化し、2020年には静岡県への移住希望者が全ての世代において日本一になった。一方、2021年には、東京23区で初の転出超過となり、約1万5,000人が流出となっている。東京全体ではまだ流入が続いているが、流入幅は大きく減っており、ポスト東京時代が始まっているのではないかと考えている。

田園都市は、もともとガーデンシティというものがああり、これを和訳して田園都市となった。本県は、浜名湖の近辺にレイクハマナガーデンシティ、中部には南アルプス・駿河湾ガーデンシティ、東部にはマウント富士ガーデンシティと、そして伊豆半島ガーデンシティということで、デジタルガーデンシティの形成を進めていく。御殿場や三島、吉田町などは、既に田園都市と銘打ってまちづくりをしており、新しい時代を先取りしているという面がある。また、雇用については、非常に厳しい状況ではあるものの、全体として有効求人倍率は1倍を超えるなど、少し明るい兆しも見えてきている。

そのような中で、まちづくり、ひとづくり、そして、しごとづくりということで、皆様方の御意見を賜りながら、いいものをつくり上げていきたいと考えている。私は、日本全体がガーデンアイランドと言われるような美しい国として、そうした中で静岡県は日本の縮図として、まち・ひと・しごと創生の先頭ランナーになれるという確信を持っている。その実現のためにも、県内各界各層の全ての方々の御協力と御理解が必要である。

本日はよろしく願い申し上げます。

### 3 審議内容

- (1) 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について  
資料1～3及び参考1～3に基づき事務局より説明
- (2) 意見交換

<委員意見>

#### 【鬼頭構成員】

事務局から説明があったが、コロナの影響もあると思うが、本県からの人口流出が大幅に減少したということは、誠に嬉しい話である。本県の転出超過の縮小が一過性で終わらないよう、女性の流出状況や、就職状況などの実態の究明が必要である。一時的なものではなく継続していけるような形にしていきたい。

それと関連して、参考資料2に記載があるが、「県内出身大学生のUターン就職率」について、目標が引き下げられており、弱気な目標設定に見える。その理由を伺いたい。

また、教育関連について、同じ参考資料の戦略4、14ページに記載があるが、「生活保護世帯の子どもの高等学校等進学率」、「特別な支援が必要な幼児児童生徒のうち個別の指導計画が作成されている人数の割合」について目標値が引き下げられている。全ての人を包括する社会を目指し、目標値は100%を目指すべきである。いろいろな問題を抱えているお子さんたちについてもきめ細かい支援、指導が必要なのではないかと考える。

#### 【天野政策推進担当部長】

先生から御質問のありました点については、コロナ禍や全国の状況、それから今の社会動向などを踏まえ目標設定している。

#### 【三須経済産業部長】

Uターン就職率については、現状が35%であり、これまでの目標43%を38%に切り替えたところである。弱気な目標設定だという御指摘もいただいたため、何ができるかを再検討させていただき、目標を見直しさせていただく。

### 【川勝知事】

見直しさせていただく。

### 【毛利構成員】

オミクロン株は、非常に感染力が強く、爆発的に感染拡大している。特に若年者に感染が広がり、学校や保育所のクラスターが非常に大きな問題になっている。そこから家庭内感染を引き起こし、エッセンシャルワーカーなどが感染あるいは濃厚接触者になり社会活動ができなくなる事態となっている。オミクロン株は、デルタ株よりも感染が強く、社会活動が止まらないようきめ細かい指導をお願いする。また、ワクチン接種をしっかりと進めるとともに、検査キットの不足が懸念されており、早急に手立てをお願いしたい。

最後に、「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」と記載があるが、周産期医療をはじめ、医師不足の状況にあり、奨学金制度などによる医師の増加が期待される場所であるが、短期間での実現は厳しいと考えており、集約化、ICT化を含めて議論を進めていただきたい。

### 【神原構成員】

戦略3に、「県版空き家バンク」の創設という記載がある。数年前、県の空き家を調べてもらったところ、多くの空き家があり、その活用について、数年前に答申をしたこともあった。県版空き家バンクについて、都市在住者をはじめ、様々な方に活用いただくよう取組を推進していただきたい。以前、徳島県がウェブを活用し、東京で募集をしたところ、地域の空き家がかなり埋まったというニュースがあった。ぜひ静岡県も積極的に活動していただきたい。

### 【酒井構成員】

アウトプットとアウトカムを分けているのは非常に分かりやすい。アウトプット型の評価が増えてきているが、今回、アウトカムの評価をきっちり実施したことは非常によいと考える。

一方で、この会議は人口減少に対する問題解決というところからスタートしていることは十分承知しているが、コロナ等が問題として出てきた結果、非常

に間口が広がった。その結果、総合戦略と総合計画が重複する部分が多くあり、2つの区別がわかりにくい印象を受ける。取組の成果を県民に広報する際は、総合計画との調整も含めて、県民が分かりやすいよう、工夫してもらいたい。

### 【高貝構成員】

コロナ禍により新たな外国人材や留学生の受入れなどに大きな影響が出ている。資料1の社会増減の推移にもあるとおり、これまでずっとプラスだった外国人の社会増減が減少に転じている。また、言葉や文化の違いでハンディキャップを抱える外国人県民にとって、コロナ禍のもたらす不安は大変大きく、医療や仕事に関して心配する方も大変多い。

県は、平成元年7月に多文化共生総合相談センター「かめりあ」を立ち上げ、日々、様々な相談が寄せられている。

他方、コロナ対応のために県の財政上も大きな影響が出ており、「かめりあ」の予算についても削減されていることから、今後の活動に大きな制約が出てくることが懸念される。コロナ禍により、県内外国人は大きな不安を抱えており、「かめりあ」の運営体制の維持・向上を含め、外国人への支援を推進いただきたい。

また、デジタル化の推進に当たり、オンライン会議の更なる促進や、会議資料の電子化（ペーパーレス化）が必要である。

### 【下位構成員】

晩婚化や里親制度を活用した子育て、中高年の再婚者の増加などを鑑みて、若い世代に限らず、幅広い年代の中で、結婚や出会いができるの良いと考える。

また、「人生100年時代」と言われる中、若い世代だけではなく、幅広い年代の中で結婚や出会いができたらいいのではないかと考える。今後はパートナーシップ制度が進み、男女のみならずいろいろな家族ができてくるため、考慮がしていただきたいと感じている。

### 【青山構成員】

静岡県が移住希望地ランキング1位であることは本当に嬉しく、誇れること

だと思う。しかし、中山間地、山間地は高齢化と人口減少が進み、農地は耕作されずに放棄されたり、野生鳥獣害の被害が増加している。そのため、山間地への移住を促進する施策を進めていただくとともに、あわせて半農半Xや農泊を進めることで農業を核とした地域のコミュニティづくりを進めて欲しい。

#### **【秋山構成員（代理）】**

岸田内閣は、持続可能性や人的投資を重視する新しい資本主義を掲げ、その政策の中で成長と分配の好循環を目指している。その実現のため、経済成長にまずは全力で取り組むことが経済界の社会的責任と認識している。成長の鍵を握るのは、DXとGXの推進であり、働き手や消費者、地域社会など、マルチステークホルダーとの共創により進めていくべきだと考えている。あわせて、働き手にとって働きがいや働きやすさを感じられる職場環境の中で、組織や仕事に主体的に貢献する意欲や姿勢が重要である。コロナ禍の中で柔軟な働き方が浸透する中、労働生産性を更に向上させるには、エンゲージメントをさらに高め、付加価値を最大化する働き方改革を進めていくことが重要である。

コロナの中で経験してきた場所や時間にとらわれない柔軟な働き方やダイバーシティ&インクルージョンなどを更に推し進め、働き手のエンゲージメントを高めることで働き方改革をフェーズⅡに深め、成長と分配の好循環を実現し、戦略2の「誰もが活躍できる、魅力ある雇用を創出する」を実現できるように進んでいきたいと考える。

#### **【前澤構成員】**

静岡県では、ほとんどの地域で人口が減少しているという実態がある。特に、私が住む静岡市清水区は極端に人口が減っている。全国的に厳しい人口減少は特に地方に及んでいるが、今後、地方創生を考えていく上で、20年後を想定し、雇用の場をどのように確保していくかをきちんと考えていくべき。

#### **【鈴木（智）構成員】**

私自身、大学や学生に関する広報的な事業を実施している中で、実感として、

学生の側が単純に知らない仕事が多く、そもそも就活のスタート時点で、仕事の内容の理解が進んでいないのに業界や職種を絞り込んでしまうことで、業界や職種に偏りが生じているのではないかと感じている。

具体的に言うと、製造業であっても文系学生の働けるところはある。そういった情報を把握した上で、学生に対し情報提供を行うべき。

ネットを使って仕事ができる環境が広まっている中、フリーランスの方の意見とも取り入れるとよいのではないかと考えている。デザインの活用推進に当たっては、レベルや質の向上のため、県内在住で全国的な活動をしているフリーランスを活用するという視点も取り入れていただきたい。

また、今の大学2年生までは、完全にコロナ禍の中で大学生活を過ごしている。本来で地域に出て遊びなり新たな交友関係を築ける貴重な期間が今は完全に変わってしまったと感じている。オンラインの活用も広まってはいるが、信頼関係を築くことが大事であると考え。コロナ禍における学生生活で、地域との交流を持つ機会が減っており、接点をできる限りつくっていただきたい。

#### **【田中構成員（代理）】**

コロナにより観光産業は非常に厳しい状況であるが、その中でワーケーションは一つの切り口である。ワーケーションを契機に静岡県に色々な方にきてもらい、個人の方に静岡の魅力を感じていただくことを出発点にして、サテライトオフィスの設置や企業進出につなげてもらいたい。個人レベルからこの静岡の魅力を満喫していただくという意味で、ワーケーションは大変有効であると考え。

また、戦略5のデジタルの部分の、「デジタルサポーターの育成」については、大変ありがたいと感じている。中小企業において、デジタルに精通した人材やそのサポート人材が不足しており、デジタル技術に関する成功事例など活用の事例も共有もできていないため、人材面や情報提供の面で支援をお願いしたい。

#### **【高木構成員（代理）】**

ふるさと回帰支援センターの移住希望地ランキングで静岡が1位になったことは、大変嬉しいことである。支援センターのスタッフや県内の35市町の各取

組において本当に親身になって取り組んできた成果が今回の1位につながったと感じている。

文化財団内に「アーツカウンシルしずおか」が設置され、昨年4月から本格的に活動しているが、まさにこの取組自体が、地域振興に文化芸術を結びつけるという主旨で進められており、大変期待された中で仕事をしていると感じている。

東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムのレガシーを受け継いだ地域振興プログラムは、かなり関心が高い取組になっている。中山間地における地域振興といった面では、アーツカウンシルが一助になると考えており、県と一緒に進めていきたい。コロナ禍においても地域の賑わいづくりの観点からも文化芸術の力を発揮していくことが重要である。

また、グランシップがある東静岡に数年先に県立図書館ができるため、それに向けて昨年より、静岡県や静岡市、また地元の大学からも御意見を聞きながら、にぎわい創出を進めている。地域的な取組においても、文化芸術の力を改めて発揮していくように頑張っていきたいと考えている。

#### 【中島（忠）構成員（代理）】

移住希望地ランキングで本県は第1位であるものの、転出超過が続いている。一方で、第2位の山梨県は転入超過に転じた。山梨の新聞記事では、山梨県が転入超過となった背景には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、リモートワークが進んだことや、東京圏へ日帰りで往来できるアクセスの良さ、豊かな自然環境が挙げられていたが、同じことが静岡県にも言えるのではないか。

いつ、誰に、何を、どのように伝えるかをきちんと整理しないと、静岡県に関心を持ってもらっても、具体的な移住につながらないのではないか。

#### 【若林構成員（代理）】

私の所属する静岡銀行で、カーボンニュートラルに対する取組についてヒアリングを実施した。その結果、「取り組んでいない」が約半分の49%、「取り組んでいる」が31%で、「今後取り組む予定」が20%となった。



SDGsに関わる融資を実施する中で、カーボンニュートラルへの取組の重要性を取引先に説明しているが、中小企業からは、具体的に何をしたら良いのか分からないという声をよく聞く。

今回の指標の見直しの中で、エネルギー消費量や県内の温室効果ガス排出量削減率を掲げているため、具体的に実施する内容も示してもらおうと、金融機関も一緒に取組を進められる。産官学金で一緒に取組を進めていきたい。

### 【伊藤構成員】

東京在住の大学生に、本県の地域コミュニティづくりの事業について説明したところ、本県は地域コミュニティを大切にしている県であり、そのため移住者に優しい県である、ということをもっとアピールした方が良いという意見があったため、本県の地方創生のアピールポイントにして欲しい。

また、県民として当たり前になっていることが、実は外から見るととても価値があることというものが他にもあるのではないかと感じており、今後掘り起こしができればいいと感じている。

### 【中島（功）構成員（代理）】

毎週番組の中で移住者について取り上げ、県民からの反響もあるため、移住関連の事業については大いに推進して欲しい。

また、静岡県にゆかりがない人が静岡県の企業に就職することも増えてきているので、Uターン対策だけではなく、他県の方を県内の就職につながる施策をぜひ実施していただきたい。

### 【神谷構成員】

このコロナ禍を契機に、子育て環境にも大きな変化をもたらした。私は、静岡県が今までと違うことも売りにしたらいいのではないかと感じているところである。

コロナを機に新たに訪問介護事業を展開し、研修を実施したところ、子育て世帯や移住者、外国人等の参加があった。

こうした方々が様々な場面において学びやすく地域に受け込みやすい環境づ

くりを推進していただきたい。

### 【鈴木構成員（代理）】

第6波のオミクロン株の感染状況が厳しくなっており、デルタとは状況が違うことも踏まえ、従来と異なる視点で推移を見ていく必要があると思っている。漁業については、漁協漁港食堂の集客データの指標は、平成30年度期から比べると3割強減少している。首都圏の感染の波がある度に漁業界も翻弄されており、魚価はもちろん、高級魚については半値になってしまうなど、商品動向、荷動きの鈍化や、食堂及び漁協が経営する直売所の休業など、漁協の経営も大変厳しい中で頑張っている状況である。ウィズコロナの時代に、産業振興は大変であるが、衛生も含めて感染防止を図るなど対策に取り組んでいかなければならないと感じている。

また、首都圏からの移住者には、漁業で生活をしたいという希望が多くいるが、船の保有や高い漁労技術を習得するハードルが高いため、厳しいという側面がある。

漁業高等学園には、高い目的意識を持った人が集まっており、即戦力が期待できる。焼津水産高校を含め、漁業に従事してもらえ、やる気のある生徒の育成に、今まで以上に支援をいただきたい。

また、離職を機に本県へ移住を希望する県外在住者を、県内企業や組織において、受け入れる方策が必要ではないか。

### 【中垣構成員】

大企業志向が続いているというのは事実ではあるが、静岡出身で、「将来的には静岡で自分で会社を起こしたいが、その前に社会経験として大企業に勤める経験が欲しい」と言って、都市部の大企業を目指しているという友人が数人いる。戦略2の指標「県内出身大学生のUターン就職率」について、将来静岡で働きたいが、社会経験を積むためのファーストキャリアとして、都市部の大企業に就職する大学生がいることも知っていただきたい。

また、私自身は地域創生やまちづくりに関わる学部には在籍しているが、二拠点生活や、静岡に籍を置いていないものの静岡で精力的に活動されている方も

多数存在しており、関係人口の増加を目指して欲しい。戦略3の指標「関係人口を創出・拡大する地域づくり活動の件数」について、「SHIZUOKA YELL STATION」に掲載されている取組以外についても把握に努めてほしい。

#### 【佐藤構成員】

移住者が過去最高となり、移住相談者も増加するなど、コロナは観光客誘致にはマイナスであるが、移住にとっては、追い風になると考えている。地域づくりの方向性として、県内を伊豆半島、東部、中部、西部の4地域に分けて、目指す姿を示しており、それぞれ特徴に合った目指す姿になっておりよいと感じている。しかし、移住者及び移住を希望する人たちが、必ずしも4つの地域区分で掲げる「目指す姿」を求めている訳では無いと思われる。移住希望者のニーズを把握し、それぞれの地域の特性と上手くマッチングさせることが出来れば、さらに施策の効果が上がるのではないか。

#### 【守田構成員（代理）】

この頃、原材料の高騰が事業者に変化響いてきている。値上げラッシュが続いており、事業所にかなりダメージが出てきている。

カーボンニュートラルについて、省エネ設備への転換や太陽光発電の設置が進んでいるが、原材料の高騰等によりダメージを受けている業種に対しては、事業再構築補助金のようなことを県でも検討していただきたい。

#### 【吉川構成員】

保育事業を継続するということが社会機能を維持するために必要だということとは、私たちが十分承知はしている。しかし、オミクロン株により、学校や保育所等でクラスターが多数発生し、閉園やクラス単位での休園等が増加したが、感染対策をしていなかったから広がったというわけではないということをお理解いただきたい。保育所等は感染対策を自分たちでは出来ない小さな子どもを預かっており、デジタル化も出来ない。職員は感染リスクを抱えながら日々頑張っている事を理解いただき、社会機能が停止しないように保育事業を継続し

ていけるよう、行政のバックアップをお願いしたい。

保育者の資質向上と処遇改善については、保育士等のキャリアアップ研修は、コロナが始まって2年間は、参集型の研修の開催が難しく、またキャンセルする方も多い中、eラーニングなどの活用により、少しずつ修了者も増えている状況である。戦略4の指標「保育士等キャリアアップ研修終了者延べ人数」について、研修は全国的に実施されている取組であるため、静岡県以外の団体が実施した研修の修了者についても加算すると、現在の指標よりは若干人数は増えるのではないかと考える。

また、コロナ禍で保育者養成校の保育実習が縮小しており、保育人材の経験不足を懸念している。今後の保育を担う若い人たちの保育経験の機会を確保していくことが今後の課題であると考えている。

#### 【鬼頭構成員】

保育というのは非常に大事である。質の良い保育士を養成することが女性の負担軽減につながり、出生率の向上につながると思われることから、保育機能の充実を推進してほしい。

戦略2の「固定的性別役割分担意識にとらわれない男性の割合」や「事業所の女性管理職の割合」は目標値の引き上げを行っていることから、男女共同参画により女性の負担軽減につながると感じており、今後も注力して取り組んでいきたい。

#### 【石丸構成員】

中小企業におけるテレワークの推進に当たっては、限られた人材で環境整備を進めていくことが課題である。

高齢者の就業については、定年年齢が上がっていることで、シルバー人材センターの確保が困難になるという課題も出ており、高齢労働者をどう活用していくかを検討していく必要がある。

#### 【山本構成員（代理）】

コロナ禍で、悪いことばかりではなく、足元に注目が集まるということで、

県内の高校生の地元大学に対する関心が高くなった。この機を捉え、今、県内の小学校・中学校・高等学校に大学生を派遣して、児童・生徒といろいろなワークショップをする事業を実施しており、非常にいい手応えを感じているところである。

また、静岡に残る、または戻ってこようという意識醸成のためにも、小学校・中学校・高等学校において、静岡県の魅力・郷土の魅力に関する教育を充実させることが必要である。また、子どもへ伝わりやすいという視点から親世代に対しても、県魅力を様々な形で発信していただきたい。

#### **【大石構成員（代理）】**

ふじのくにパスポートについては、高校3年生に配布しており、この時期に配付することがだんだん定着してきていると感じている。

ヤングケアラーへの対応について、教育の場においても今後も継続的に取り組んでいく必要がある。

#### **【川勝知事】**

ふじのくにパスポートは、本日冒頭で発言された鬼頭先生の提案により開始し、それを続けている。確かにその効果が出てきているということを我々も感じているところである。

#### **【望月構成員（代理）】**

御承知のとおり、今コロナ禍の中で、観光業界は大変苦しい状況にある。観光は、飲食業や旅行業など色々な業界が関係しており、最終的な目的は地域振興だと思う。魅力ある暮らしの提供や新しい人の流れの創出にあたり、関係者が協力して取り組んでいく必要がある。

#### **【中谷構成員】**

地方創生の3つの視点、ヒューマン、デジタル、グリーンという指摘があり、その中で私どもの業界はグリーンに関わっている。二酸化炭素の森林吸収源について、スギ・ヒノキは概ね20年生をピークに森林吸収源としての役割を少し

ずつ果たせなくなっていくが、現在、静岡県の森林は9割以上が41年生以上となっている。森林をいかに適正に管理していくかが大きな課題であり、森林保有者、県とも協力しながら、解決に向けて取り組んでいく必要がある。

#### 【川勝知事】

森林に対しては私も深い思い入れがあるため、制度化や植林を進め、しっかりCO<sub>2</sub>を吸収できるような森にしたいと思っている。

#### 【菊地構成員】

現在、産婦人科は減る一方である。生活圏内の利便性の良いところに産婦人科か助産院があることが移住者にとっても安心材料になるため、総合戦略に分娩施設に対する考え方を記載してはどうか。

#### 【太田構成員】

町でも、それぞれまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定して、推進を図っているところである。それぞれ目標の数値を達成し、目標に近づけば、県の数値も上がっていくのではないかと考えている。総合戦略の推進にあたり、県と市町で役割分担、意見交換をしながら、効果のある施策を進めていただきたい。

#### 【天野政策推進担当部長】

貴重な御意見をいただき、構成員の皆様にご礼申し上げます。私から、質問や御指摘いただいた点について、簡単に回答申し上げます。

鬼頭先生から話があった女性の流出状況について、2020年には本県にとどまっている女性の数はかなり多くなってきている。先生の御意見にもあった原因の究明は非常に難しいものの、しっかりと実施していく必要があると思っている。このことが、商工会議所連合会酒井会長や静岡新聞社中島専任局長の発言にもあった成果にもつながる。移住者の増加や、女性の流出状況をしっかり分析し、また、山梨県が何らかの施策で奏功しているのであれば、そういうところもしっかり聞きながら対策を打っていかねばいけない。

また、金融界の皆様からは、脱炭素に企業がどのように取り組んでいけばい

いのかというような話があった。これは、各中小企業、特に小さい企業が、脱炭素をうまく乗り切ることができず、サプライチェーンからはじき飛ばされてしまうのではないかと、という大きな懸念を持っているということであり、各首長や経済界からも様々な会合で聞いているところである。この対応として、今、国の関係省も、各企業あるいは国民の皆様に取り組んでいただくためのハンドブックを作成しているということである。また、企業に対してはよりレベルの高いものを経済産業部が企業脱炭素化支援センター（仮称）などと協力して作っていくため、来年度、皆様に情報共有していきたいと考えている。

コミュニティづくり推進協議会の伊藤会長からの御意見のとおり、地域コミュニティは極めて重要であり、一旦移住してきても、そのコミュニティが合わない、そこからまた転出するということが発生する。そのため、コミュニティがいかに移住者を受け入れるかというのは極めて重要な課題であると認識している。「かめりあ」の話もあったが、外国人の方々も含めて、しっかりと対応していきたい。

中日新聞社佐藤取締役東海本社代表の御意見にもあったが、地域が目指す姿と、移住者がどういうものを目指しているかというところのマッチングについては、コミュニティ全体の問題として考えていきたい。

農林水産業については、静岡県農業協同組合中央会青山会長から中山間地への移住の促進施策の充実という御意見をいただいた。実は農業や林業をやりたい方は、たくさんいるため、そういった方々の希望をいかに捉えて、農業や林業につなげていくかを一生懸命考えてまいりたい。水産業についても、移住してきてすぐ船に乗るということとはできないものの、同じようにシステムづくりをしっかりとやっていきたい。

あわせて、病院協会毛利会長から御指摘があった医療については、安全・安心な社会、人々が集い安心して暮らせる社会をつくるために、今は特に防疫体制・医療体制の充実は必要であるため、しっかりと対応していきたい。

#### 4 閉会挨拶

##### 【川勝知事】

本日は、本会議に御出席賜り御礼を申し上げます。本日は会議に全ての部長が

出席しており、お話を承っている。皆様方からいただいた御意見は皆反映させてまいりたい。あわせて、パブリックコメントも実施しており、県民の皆様からいただく御意見も十分に勘案し、3月には成案として公表してまいりたい。

新型コロナについては、静岡県は現在レベル3、病床の占有率が2分の1を超えているという状況であり、医師、看護師、保健師の皆様については非常に厳しい状況に置かれている。吉川会長もおっしゃっていたが、十分な感染対策を取っても感染が起きる中で、医療提供体制を支えている方々が今苦境の中にいるということを皆様方には十分にお心得願いたい。今後、緊急事態宣言を出すのかどうかというのは、国との協議になるが、いずれ近いうちに判断したい。

ともあれ、本日の議論を中心に、静岡県をまち・ひと・しごと、それぞれが輝く地域にしてまいりたい。

今日は、長い時間御出席賜り、厚く御礼を申し上げます。